

## D-1 学力向上の具体策

### 1 授業改善

#### <国語科>

- ・4年以上の学年の授業では辞典を必ず持参し、分からない語句は自分で辞典を使って探すように指導し、習慣化させる。
- ・主語・述語、指示語・接続語については、児童に前もって調べさせたり、教科書やノートに書き込みをさせたりして、繰り返し指導していく。

#### <算数科>

- ・整数・小数の位取りなどについては、各学年で関連のある学習で、繰り返し取り上げ定着させていく。
- ・文章問題については、その内容を確実につかませるようにキーワードに着目させ、見通しを明確に持たせ、解いていくように各学年で指導する。

#### <社会科>

- ・基本的な用語（自給率、輸出、輸入など）は、確実に理解できるように意味も含めて指導すると共に、その用語を使って社会的な事象を説明できるように学習を進める。
- ・資料の内容について、必ず自分なりにまとめさせ、考えを持って授業に臨ませ、的確な見方ができるようにさせる。

#### <理科>

- ・観察や実験を行うときに、記録をしっかりと書かせ、それをもとに授業を進め、理解を確実なものにする。
- ・観察記録の考察までしっかりと書くことができるように指導し、思考力を高めていく。

### 2 教育課程の工夫改善

#### <毎朝授業開始前、15分間の基礎・基本タイム>

授業と同等に位置づけ、全教師が全学級で指導し、基礎・基本の定着、集中力や学習意欲を育てる。  
漢字、計算のドリル学習と読書（月・火…漢字 木…計算 水・金…読書）

#### <朝の会・帰りの会>

- ・「話す」技能の向上を図るため、その日の感想、反省、意見発表などのスピーチを行う。話し方がきちんと定着するよう、時間を確保し計画的に指導する。

#### <長休み時間のふれあいタイムでの読書推進活動>

支援ボランティアの読み聞かせや、大型紙芝居などの読書啓発活動により読書推進を図る。

#### <週1回、放課後の習熟タイム>

弱点補強の繰り返し学習や、より伸ばすための発展学習に取り組ませる。

このことが家庭における勉強の仕方に役立ち、学習習慣が身に付くようにする。

＜長期休業中の学習教室＞

基礎・基本には適時性があり、学年での積み残しがないよう、到達度の低い児童に対する学習指導を全校的な課題としてとらえ、補充学習などの手立てを長期休業中に行う。

### 3 家庭との連携

- 通知表渡しで、児童の学習状況をきめ細かく保護者に説明し、学校で指導することと家庭で指導することを明確にし、それぞれで指導に取り組んでいけるようにする。
- 学習習慣が形成できるように家庭に呼びかけ、協力しながら指導する。
- 教育活動の状況や成果などの具体的な内容が見えるように、学校参観日、公開行事、PTA 総会の折りに学校の取り組みや成果・課題などを説明する。
- PTAと協力し親子読書の取り組みを充実させ、読書習慣を確実に身に付けさせる。